

セル画とは

原画をもとに、その間をつなぐ連続する画を描きおこし、紙に描かれた線画の動くパラパラマンガのようなものを作ります。これをセルと呼ばれるセルロイド製の透明なシートに転写（トレース）し、裏面に専用の塗料で彩色し出来上がったものがセル画です。このセル画と背景を組み合わせた1コマずつをフィルム撮影することにより、セル・アニメーションが完成します。日本のテレビアニメは通常1秒あたり8枚のセル画を用いるのが主流でした。ただし現在のアニメの作画作業は、ほぼコンピュータ・グラフィックスによるデジタル作画に置き換えられています。

区内で子育てしながら 主婦目線のマンガを描く、 高橋三千世さん。

江戸川区生まれの高橋三千世さんは、子育てなど身近な生活を題材にマンガを描き、その主婦目線が共感できると多くのファンから支持されています。「4人の子育てをここでしてきましたが、今日はフラワーガーデン、明日は葛西臨海公園と、区内にはお金を使わなくても楽しめる多彩な公園があつていいですね。自然動物園や葛西臨海水族園で、生き物と触れ合える場所もあちこちにあります」。家族が増えることで、区内の良さを再確認したという高橋さんは、一度引っ越して江戸川区を離れたことがあったとか。「自然豊かな場所だったのですが、水が合わなかったというのでしょうか、ホームシックにかかって半年で江戸川区に逆戻りしてしまいました」。先ごろ、区内に念願のマイホームを持たれたという高橋さん。江戸川区を背景にした次なるマンガが待ち遠しいですね。



★ 高橋三千世 (たかはし・みちよ) ★

江戸川区葛西生まれ。現在は子ども4人の6人家族で区内に在住。1995(平成7)年、育児雑誌「ベビーエイジ」のイラストコンテスト優秀賞受賞を機にマンガ家デビュー。自らの体験を素材にした「風まかせ育児」シリーズなど、子育てマンガやエッセイで活躍。その他、エコや株など主婦目線の体験をネタにした作品も多数。2003(平成15)年には江戸川総合人生大学設立準備委員会委員となり、地域の基盤づくりに参画。現在は「東都よみうり新聞」で1コマ漫画の連載を持っている。

とよ田みのる氏の代表作 『ラブロマ』には 江戸川区の風景がいっぱい!

「大好きな街ですから」と話す、とよ田みのるさんの代表作『ラブロマ』には、ページをめくることに見慣れた風景が現れます。高校生カップルのキュンキュンする恋愛話の背景にあるのは、新中川の水門、葛西臨海公園の観覧車、江戸川区スポーツランドと、とよ田さんが子どもの頃から過ごしてきた江戸川区が描かれています。「二人の恋愛は僕が体験したものではないけれど、高校は母校だったり、僕の日常の地続きに彼らを描くことで、彼らがよりリアルな存在になると考えました」。ボーリング場のように、かつて遊んだ場所をマンガの中で蘇らせた一コマもあります。ちょっと前の江戸川区を知る人たちにも、今の高校生にも、必ずきっと共感してもらえる『ラブロマ』。地元から再びムーブメントが起こったら、二人のウン年後という続編も描いてもらえる、かな?!



★絶賛発売中!

『タケヲちゃん物怪録』第1巻・第2巻

『とよ田みのる短編集 CATCH&THROW!』

『ラブロマ新装版1・2・3』

★近日発売

『ラブロマ新装版4』1月中旬発売予定

『ラブロマ新装版5』2月中旬発売予定



★とよ田みのる(とよだ・みのる)★

本名:豊田実 幼少時代から江戸川区で暮らしてきたマンガ家。1971(昭和46)年生まれ。25歳頃から本格的にマンガ家を志す。2002(平成14)年『ラブロマ』で同賞春の四季大賞を受賞し、デビューを果たす。2003(平成15)年から2005(平成17)年、『月刊アフタヌーン』で『ラブロマ』を連載。高校生カップルの直球すぎる、初々しさすぎる恋愛話が話題となる。『FLIP-FLAP』『友達100人できるかな』他、2011(平成23)年12月発売の『月刊少年サンデー1月号』通称ゲッサンより『タケヲちゃん物怪録』を好評連載中。

ギャグマンガの王様！ 赤塚不二夫氏が 東京で初めて暮らした街、小松川。

18歳の赤塚不二夫青年が、父親の縁故で上京し働くことになったのが、江戸川区小松川にあった化学工場、エビス科学工業でした。現在は小松川公園自由の広場になっているエビス科学工業で、赤塚氏はデビューする直前まで働き、暇を見つけてはマンガを描き、雑誌に投稿していました。そんな赤塚青年を温かく見守り、親身になって面倒を見ていたエビス科学工業の社長とは、人気作家になってからも長く交流が続いたといいます。社長が画期的な消火器具を発明し販売を始めた時、赤塚氏は何か手伝えることはないかとすぐに社長を訪ねてきたそうです。消火器具のパッケージに載っている『天才バカボン』の4コママンガはその時に、恩返しにと、贈られたプレゼントだということです。



赤塚不二夫氏が働いたエビス科学工業（株）の跡地は現在、大森小松川公園になっています。

★ 赤塚不二夫（あかつか ふじお）★

本名：赤塚藤雄 1935（昭和10）年旧満州生まれ。終戦後帰国し、手塚治虫の『ロストワールド』に影響を受けマンガ家を志す。1953（昭和28）年に新潟から江戸川区に上京し働きながらマンガ雑誌に投稿する。1956（昭和31）年に『嵐をこえて』で貸本デビューした後、藤子不二雄や石ノ森章太郎らが暮らした豊島区のアパート「トキワ荘」に入居。以降『おそ松くん』『ひみつのアッコちゃん』『天才バカボン』など、数々の傑作を描く。2008（平成20）年逝去。

江戸川区ゆかりのマンガ家さん

読者を爆笑の渦に巻き込み、
時にホロっと、時にしみじみ、
心を和ませてくれるマンガ。

この地の人々のやさしさに触れたから…
この地に川や公園など豊かな自然があったから…
これらの作品は生まれたに違いありません。
笑いあり、涙あり。江戸川区ゆかりの
マンガ家さんやそのエピソードをご紹介します。

日本マンガ&アニメの歴史 鳥獣戯画からデジタルアニメへ

肉筆によって描かれた顔画は、

木版技術の進歩により

唐や浮世絵となって店まり。

近代には新聞や雑誌に作品を提供する

マンガ家という職業が確立されました。

そして戦後、手塚治虫、赤塚不二夫など

天才が次々に現れた日本マンガは

今、翻訳コミックやアニメになり

世界に羽ばたいています。

12-13世紀（平安朝代之第一攝關政治時期）

18世紀初頭 自由主義

19世紀後半（江戸末期後）
『蘭語訳撰』など、西洋の風刺マンガに
影響を受けた風刺マンガ雑誌の出現が特徴

20世紀初頭
戦末で制作が途切れたアニメーションは、戦後40年代に日本で紹介され、高度アニメーションの制作が始まる。戦後は商業活動とすることを目的としてい

1930年代
マンが大人気俳優になり、この頃には「めろくろ」など
子ども向け人形マンが製作販売されるベストセラーになる

第二次世界大戦後
 戦争映画をはじめとする多くのマンガ家が、戦争映画などで作品を発表し始める。1956年東宝映画（現・東映アニメーション）、1961年東宝ビジュアルシティ設立により、アニメーション制作も大々的に展開が図られ

日本初の国産自動車「日野」は、東京府豊島区に於て製造された。1958年

『週刊少年マガジン(読者誌)』『週刊少年サンデー(小児誌)』が同時に創刊され漫画マンガが確立される **1959年 マンガ雑誌の隆盛**

月刊「なかよし」(講談社)から月刊「少女フレンド」へ。1962年
 青年月刊「リボン」(集英社)から「マーガレット」に移行され、少女誌も週刊時代に突入する。

映画部30分連続テレビアニメシリーズ「新機軸アトム」が始まる 1963年

日本初のカラーテレビアニメ『ジャングル大帝』の制作が出来る
この頃からテレビアニメと連動したマンガが爆発。(『バケモノ一家』『魔法使いサリー』『お母さん先生』『美少女战士』)
『リボンの騎士』『バーテン』『巨人の星』『ゲゲゲの鬼太郎』『ひまわり』『おこづちゃん』『サザエさん』『あしたのジョー』
『あひるのこ』『ナツ』『パンコング』『王様(おとこ)』『トコちゃん』『藤の家族』など、数々の作品が次々にアニメ化される。

マンガ界最大のイベントに成長するコミックマーケット(コミケ)始まる **1975年 コミケ時代はじまる**

劇場アニメ「宇宙戦艦ヤマト」が大ヒットを記録する **1977年**

「運用数値99%」が発表され邦国発行年報1位に輝くことでマンガの影響力が拡大 1979年

マンガブームがやや下火になるの「サット」(Dr. スランプ アラレちゃん)が大ヒット 1981年

ラブコム子(ラブコム)創設期を迎え、スポーツ関係物(スバ域)が中心に、1982年

1984年 スタジオジブリ第1制作品『風の谷のナウシカ』が公開される

1986年 『ネオン狂人』『キャプテン翼』『北条の狼』『ドラゴンボール』などがヒット

クール・ジャパンのさざし 1988年 テレビアニメ「それいけ!アンパンマン」スタート、初のクール・ジャパンの作製となるアニメ映画「AKAPO」公開

1990年 テレビアニメ「ちびまる子ちゃん」が最高視聴率をマーク

3Dアニメ登場 1995年 日本マンガの売上はピークに達し、海外に合わせた多様なマンガ雑誌が多く創刊される。世界的にわって3Dアニメ「トイ・ストーリー」が話題になる。ディズニー「新世紀レオナルド」が話題されヒット、社会現象となる。

1997年 テレビアニメ「ゴジラ・モンスター」が興行、世界的に空襲の被害メンバーが暴走する。ゴジラ・モンスターは、ゴジラ・モンスターへの暴行が激し。

1999年 テレビアニメ『ワンダース・スタート』

2000年以降 アニメブームとの関連性もあり、全世界規模で日本マンガの翻訳・出版が急激に広がる

クール・ジャパンを世界が賞賛

